

会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成 26 年度相模原市地域保健医療審議会保健医療計画推進部会				
事務局 (担当課)		健康福祉局保健所地域保健課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 2 4 1 (直通)				
開催日時		平成 27 年 2 月 18 日 (水) 19 時 30 分 ~ 20 時 45 分				
開催場所		総合保健医療センター A 館 7 階 視聴覚室				
出席者	委員	6 人 (別紙のとおり)				
	その他	0 人				
	事務局	18 人 (保健所長 他 17 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 (1) あいさつ (2) 相模原市保健医療計画推進体制について (3) 委員自己紹介 2 議題 (1) 会長選出 (2) 主な事業の進捗状況について 3 閉会				

審 議 経 過

部会の冒頭、出席委員の人数が定足数に達していることを確認した。

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

議題(1) 会長選出

大山委員が会長に選出され、あいさつをいただいた。

(以下、大山会長により議事を進行)

議題(2) 主な事業の進捗状況について

妊婦歯科健康診査事業について、現在は希望者を対象としているが、妊娠期間中はむし歯や歯肉炎になりやすく、また母親の意識が将来の子供の歯科保健に重要な影響を与えることから、ぜひ全ての妊婦を対象とすることについて検討いただければと考える。

妊婦歯科健康診査については、本計画とともに歯と口腔の健康づくり推進計画においても進行管理を行うものであり、併せて検討を進めていきたい。

たばこ対策に関して、健康づくり普及員活動の一環として小学校において6年生等を対象に、喫煙が心身に及ぼす悪影響等について啓発に努めている。今後は、さらに多くの小学校に賛同いただき、本事業に積極的に関わってほしいと考えているが、行政は本件をどのように推進すべきと考えているか。

学校教育課では、薬物乱用防止教育事業として小・中学校と連携して、たばこをはじめ危険ドラッグなど様々な内容について薬物乱用防止教室を実施しているが、一層の充実に向け実施する学校の増加に取り組んでいきたい。

妊婦歯科健康診査事業に関して、事業の実施方法の検討及び産科・婦人科のある病院と連携した普及啓発について具体的にどのようなことを考えているか。

まず、妊婦歯科教室について現在2日間コースで実施している

が、参加者からの御意見を踏まえ、より参加しやすく1日コースでの実施について検討したいと考えている。また、産科・婦人科のある病院との連携については、妊婦の方に対して、各かかりつけの産科・婦人科から、妊婦歯科健康診査について普及啓発の御協力をいただき、受診者の増加に繋げていきたいと考えている。

基本理念にある「個人 家庭 地域社会が一体となった生涯にわたる健康づくり」のうち、特に「地域社会が一体となった」の部分を見みると、歯と口腔の健康維持に関して、各ライフステージを通じてかかりつけの歯科医を持つことが重要と認識しており、そういった形になる流れを作っていくことが大切だと考える。また、成人歯科健康診査事業に関して、現在40～80歳で年齢が区切られているが、80歳を過ぎると加齢による機能の低下が顕著であることから、協力歯科医療機関における歯科健診及び歯科保健指導の80歳までとする上限年齢の撤廃について検討いただきたい。

御指摘の部分についてはよく認識しており、検討を進めたいと考えるが、これまで成人歯科健康診査事業について毎年徐々に対象年齢の拡大を図ってきたところであり、その点についても御理解を賜りたいと考える。

全体の資料の在り方について、今回は平成25年度の実績を中心に状況を報告いただいているが、今後は、各事業について年度ごとの実績を表記して、どの程度進捗があったのか分かりやすい形にしていきたい。

ただいま御指摘いただいた事項について、次回以降の資料に反映させていただくとともに、当該年度の進捗や課題に対する考え方等をより具体的に整理してお示ししたいと考える。また、会議の開催時期についても、翌年度の予算要求等に間に合うよう配慮したいと考える。

急病診療事業に関して、相模原西メディカルセンターの在り方及び津久井地域の夜間輪番制度の在り方について具体的に説明いた

だきたい。

現在、市内には4つのメディカルセンターがあるが、旧津久井地域については、夜間にメディカルセンターの運営は行っておらず、診療所の先生方に輪番で対応していただいている。また、西メディカルセンターの施設の老朽化が顕著であり、建替えも含め検討する必要があると考えている。さらに、橋本にできた北メディカルセンター開所後の患者動向を踏まえ、全体としてメディカルセンターの在り方についても検討が必要という状況である。

この問題は、津久井地域との合併当時から懸案となっているが、当時のまま取り残されている印象がある。取組に係る課題というよりも、むしろ全体の急病システムを考える問題である。メディカルセンター全体を考える場である相模原市地域医療対策協議会（初期救急医療）で、大きな課題として取り上げた方がよいと考える。

全体に関して、各事業に概ね共通して参加者が少ないことから、普及啓発に努力していくと述べているが、行政として市民に対して周知する良い方法等、具体的な取り組みについて考えがあるか。

参加率が低い等について、その原因がどこにあるのかを分析することが重要であると考えている。各担当課において、事業実施時のアンケートをより一層分析するなど、さらなる参加者の増加に向けて努力していきたい。

メタボの関係について、学校保健においては、肥満度は全国的に改善傾向があり、これは保護者が関心を持って児童生徒の日常生活にあたっているという実態が文部科学省として報告されている。一方、成人の特定健診は受検率が低く、保護者の年代の肥満度や食生活習慣は変わっていない現状がある。これは、自身の問題として認識できていないところに問題があると感じる。たばこの禁煙についても本人がよほどの意識を持って取り組まないと達成は困難である。改善に繋げるには、自分に対する意識をどうやって高めていくかが大事であると感じる。

資料の構成であるが、本来、平成25年度の事業結果に対してどのような課題認識を持ったのか、そしてそれに対してどのような改善策を講じ平成26年度の事業を構築したのか、さらにその結果をどのように分析したのか、そのような流れによる資料づくりが評価検証にあたって相応しいと考えるが。

御指摘のとおりである。今後は、そのようなPDCAを踏まえ資料を作成し、御提示したい。

事業への参加者の増加等に関して、魅力のある場所等の活用という中で大規模商業施設や大規模なイベントとタイアップすることがより効果的な普及啓発方法ではないかと考える。また参加された方が何かしらの益を受けられるということも参加への動機づけになると思われる。このような観点からも事業の工夫を検討いただければと考える。

最後に、会長から事務局に対し、本日の部会での各委員からの意見や要望を十分に踏まえ今後の事業を進めるよう要望され、閉会。

以 上

平成 26 年度 相模原市地域保健医療審議会保健医療計画検討部会

出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備考	出欠
1	大山 宜秀	一般社団法人相模原市医師会	会長	出席
2	井上 俊彦	公益社団法人相模原市歯科医師会		出席
3	大岡 元	公益社団法人相模原市薬剤師会		欠席
4	佐藤 美樹	公益社団法人神奈川県看護協会 相模原支部		出席
5	高部 博	社会福祉法人相模原市社会福祉協 議会		出席
6	豊浦 友子	相模原市食生活改善推進団体 わかな会		欠席
7	永富 多美子	相模原市健康づくり普及員連絡会		出席
6	片桐 万里子	特定非営利活動法人神奈川県歯科 衛生士会相模原支部		出席